



Global Peace Leadership Program



広島大学が掲げる理念のひとつ

「平和を希求する精神」

広島大学ではこの理念にもとづき、

平和を願い求める崇高な精神を育み、

国際的教養人として世界で活躍する力を育成する

「Global Peace Leadership Program」を

平成29年度から展開しています。



広島大学長 越智 光夫

C o n c e p t

社会・文化・経済のグローバル化が急速に進んでいる現在、国際的な流動性は今後さらに高まることが予測されます。そのため、世界のめまぐるしい変化に柔軟に対応し、文化の異なる相手とも適切なコミュニケーションを行って自身の意見を述べるができる、グローバル人材の育成が強く求められるようになりました。

こういった背景を踏まえ、広島大学では「Global Peace Leadership Program」(略称:GPLP)を開設することとなりました。国際社会で通用する英語力、多文化社会における課題の発見・解決能力、リーダーシップ力、キャリア形成力を徹底的に鍛え、日本文化や平和についての理解を深めることで世界における日本人としてのアイデンティティを確立する、これからの社会でグローバルに活躍する人材を育てるプログラムです。

本プログラムの受講者は海外留学が必須となっており、留学という経験を通じて、海外の先進的分野における知識・技能・態度や思考力・表現力を学び、グローバルな人間関係の構築を目指します。海外での態度や行動様式に関する学びを得ることで、国際社会で生き抜くために必要な力を身につけ「平和を希求する国際教養力を備えたグローバル人材」を育成することを目標としています。

GPLPで育成する「5つの能力」

(1) 留学支援英語

グローバル化時代に対応するため、英語をコミュニケーションツールとして運用し、文化の異なる相手ともディスカッションすることができる能力を養成する。また、TOEIC® 800点レベルのスコアの取得を目標とする。

(2) 平和科目

英語によって開講される平和科目を学ぶことにより、平和について戦争・紛争、核廃絶、貧困、飢餓、人口増加、環境、教育、文化など様々な観点から考え、理解を深めることを目標とする。

(3) 国際交流科目／フィールド型演習

異なる文化や価値観を持つ他者と交流し、互いに啓発し合うことで新しい価値を生み出そうとする姿勢、異文化への寛容性、及びディベート能力を育成する。さらに、被爆地ヒロシマという特別な地域性を理解し、これからのグローバル化社会で必須となるチームワーク、リーダーシップ、プレゼンテーション能力といったマインド・スキルをフィールドワークを通じて修得する。

(4) 日本文化

美術、芸術、工芸、建築、文学、歴史、宗教、思想など様々な視点から日本文化を捉え、その基本的知識を身につけて、さらに理解を深めることを目標とする。

(5) グローバル・キャリア・デザイン

インターンシップやボランティア活動など、企業や地域社会との交流や連携を通じて、グローバル人材に求められる課題発見解決力、チームワーク力の養成を目標とする。また、自らのキャリア形成に対する意欲向上も目標とする。

「英語が好き」から 「英語で世界を視る」への転換

歩いて、見て、考えて。

世界を歩かないとわからない課題を見つけ、解決を探りたい。



渡部 恭子 Kyoko WATANABE

総合科学部 総合科学科

将来の夢は世界一周。
中高時代からウガンダなど開発途上国を訪問。

広島大学を選んだのは
「スーパーグローバル大学」だから

中学時代先生から聞いた世界各国の話に興味を持ち、英語に興味を持ったことがきっかけで、中高時代にはハワイやウガンダ、フィリピンなど数か国を訪問する機会を得ました。広島大学を受験することに決めたのも、世界を歩き来するうちに「もっと英語を勉強したい、そして将来は世界で活躍したい」という思うようになり、「世界中の大学と提携しながらグローバル人材育成を行っている『スーパーグローバル大学』で大学教育を受けたい」という一心からでした。

実はGPLPについて知ったのは、入学後のことです。英語の勉強がみっちりできてさらに留学もできる、と私にとっては本当に魅力的なプログラムで、入学後に何気なく見ていたら書類でプログラムについての記述を見つけ「しまった、見落としてた!」と焦ってしまったほどです。本当にわくわくしながら参加を申し込みました。

GPLPの講義で知った、英語の新しい視点

GPLPには、参加条件として必修となる様々な講義がありますが、英語で受講する「平和科目:Global Issues Towards Peace」では、戦争や紛争といった問題のみならず、「貧困」などの世界問題についても学びます。

私が中高時代訪れた開発途上国では、小さな子どもたちが泣きながら駆け寄ってお金を求めて来たり、見ず知らずの人から身につけている物をくれるように懇願



されたりと、日本では考えられないような出来事にも遭遇しました。「平和科目」の講義では、こういった形の「貧困」に加え、日本のような先進国にも内在する「見えない貧困」について講義を受けました。私はこれまでずっと単純に「語学」としての英語に興味を持ってきましたが、「それぞれの言語にはその言語ゆえの心理構造があり、そこから派生する社会問題もその言語の中に隠れているのではないか」と、「語学」を「言語」として科学的に捉えることができるようになったのは、この講義のおかげだと思っています。

また、日本語と英語には「言語間距離」があるというのもGPLPの講義の中で学んだことのひとつです。この日本語と英語の構造や言語コミュニケーションの差異について学ぶことで、ともすれば英語が不得意だと言われがちな日本人がどうすれば効率よく英語を習得することができるのかも、おもしろい研究課題になるのではないかと考えています。中高時代からずっと大好きだった「語学」としての「英語」が、世界を多角的に捉えるさらに重要なファクターとして認識できるようになったのは、GPLPに参加したことの大きな収穫の一つです。

ネイティブの中で英語力を磨いて、 世界の人の役に立ちたい

夏には、INU学生セミナーで、10カ国以上から広島を訪れた留学生とともに「模擬国連」も体験しました。1週間留学生たちとみっちり英語で生活をともにし、討論しあい、という体験は留学の時以上のチャレンジで、まだまだ英語力が不足していることをしみじみと痛感しました。留学生たちとのオフトークで日本文化についてきちんと語れなかったこともあり、被爆地ヒロシマとして伝えるべきことも含め、海外で学び始める前に学ばなくてはならないことがたくさんあるとも感じさせられました。幸いGPLPの必修講義には「留学支援英語」も、「日本文化群」もたくさんあるので、仲間たちと切磋琢磨しながら、留学に向けてこれからしっかり学ばせてもらうつもりです。

留学先については、専門などがはっきりしてから先生方と相談して決めていくことになりませんが、現在興味を持っているのは、イギリスです。これまで開発途上国の教育や貧困問題については目にする機会がありましたが、英語圏でネイティブと交流しながら英語力を磨き、ヨーロッパの文化を肌で感じて、新しいインサイトを見つけたいと思っています。

将来は英語を生かし、海外で人の役にたつことができるような職業につくことができたらと思っています。卒業後グローバルに活躍するために、GPLPのプログラムを利用して、まずは世界を自分の足で歩き自分の目で見て、可能な限り視野を広げていくつもりです。



「最後は自分の心で決める」目標を追い求めるもよし、 これから見つけるのもよし

女優の道と留学で悩んだことがある村本さんと、小学校時代から一歩もぶれず未来を見据えている詫間さん。
GPLPで出会った大の仲良しのふたり。



写真左 **詫間 しおり** Shiori TAKUMA

文学部 人文学科

香川出身 ラクロス部所属。
おっとりした雰囲気ながら、被災地に毎年ボランティアに行くほどの行動派。

写真右 **村本 寿子** Hisako MURAMOTO

文学部 人文学科

長澤雅彦監督の短編映画「10ミニッツ」で主役をつとめる。
憧れの女優はグレース・ケリーとオードリー・ヘプバーン。
岩国市から新幹線通学。

ふたりともGPLPが楽しみだった

詫間しおり

広島大学を受験する前からGPLPがスタートすることを知っていたんです。スーパーグローバル大学だったことも合わせて、GPLPは広島大学を受験することにした理由のひとつでした。

村本寿子

私も入学前にGPLPのことをホームページで知って。私が海外に憧れているのを知っていた家族と、「これいいね！」って話題になりました。もともとグレース・ケリーに憧れてモノコの公用語のフランス語を学びたいと思い広島大学の文学部を選んだこともあり、とにかく広島大学に来れば国際的な機会があるのでは、と期待に胸をふくらませての入学でした。

詫間

私は小学生の時に雑誌の懸賞でアメリカ旅行が当たったんです。まだ3年生でしたが、あの時のカルチャーショックはずっと鮮明で。中学校のときに慕っていた英語の先生がアメリカ留学経験についてよく語ってくれていたこともあり、アメリカへの思いは日増しに強くなって。文学部なら、アメリカ文学を通してアメリカの過去を知ることができる、と思ったのが今の学部を選んだ理由です。もちろんGPLPに参加することにしたのは、「原点のアメリカに戻りたい」という理由からでした。

留学への思い、未来への不安

村本

地元を舞台にした短編映画に出演したことがあって、映画監督さんたちとつながりがあることもあり、もともと演技の道も気になっていたんです。同時に、海外でスムーズにコミュニケーションをとれるような語学力を身につけるには、その地に入っ

学ぶのが一番いいとも思っていて。だからこそGPLPに参加することに決めたのに、時がたつにつれ「留学は今すぐすべき?」と悩みだしてしまって…詫間さんに相談したこともあったよね。

詫間

私は将来公務員として、瀬戸内国際芸術祭のような外国人を誘致するイベントをサポートして、出身地香川の魅力を伝えたいと思っています。海外で学ぶことはそのためにも必須だと思っているのですが、村本さんはあの時本当に悩んでいたよね。

村本

それで、プログラムスタッフの職員の方や、担当の教授に相談までさせていただいたんです。女優をはじめ、挑戦したいことがたくさんあって、留学を含めた優先順位が分からなくなってきてるって。そうしたら教授が「全部トライしてみたらいいじゃない」と言ってくださったんです。GPLPのプログラムの中から、いろいろな選択肢を教えてくださいまして、その上で「最後は自分の心で決めなさい、自分の一歩で踏み出して」と。私の迷いを受け止めた上で応援してくれる。学生を尊重してくれるプログラムなんだな、とその時は涙がでるほど嬉しかったです。私は海外経験が全く無いので、余計に二の足を踏んでしまったのかもしれませんが。でも今は「よし、行ってみようかな」という気持ちになっています。もちろん、まずは英語の勉強からなので、しっかりとGPLPの講義を受け、コミュニケーションの取れる英語力を身に付けようと思います。INU学生セミナーの時には、あまりにも意思疎通ができなくて初日に泣いてしまったくらいなので…。



目標をみつけて走り出すまで

詫間

INU学生セミナーは大学内にいながら、まさに留学さながらの環境でしたね。言葉が伝わなくても伝えたい気持ちがあれば通じるけれど、自分の気持ちをもっと正確に表現して伝えたい。私はSTARTプログラムでバージニア州のジェームス・マディソン大学に2週間留学したのですが、このときも同じ思いを感じ、お互いのことを理解し合うためには、まだまだ英語の勉強が必要だと強く感じました。この時の講義やGPLPのさまざまな必修講義を受ける中で、複雑な家族の概念など、アメリカのいいところだけでなく、アメリカが抱えている影の部分まで知りたいという社会学的興味も持つようになりました。私は中学生のころから、東日本大震災の被災地にボランティアに行っています。私は自分の目で見て肌で感じるために、その場を実際に訪れてみたいです。海外の方にもヒロシマを訪れて欲しいと思っています。文学が「過去」なら、留学は「現在」、そしてそこから繋がる人と人との交流が「未来」なんだと感じています。

村本

人と人との交流が「未来」だというのは同感です。まだ私は詫間さんのような、はっきりと明確な目標や将来像も定まっていないのですが、こうしてGPLPに参加したことで、詫間さんや他の仲間を得ることができました。共に学び、励ましあい、留学などについても情報を共有し合う中で、きっと私の未来も見えてくるはずだと感じています。



学部の枠を超えて尊敬できる仲間と出会えたのが、 一番の宝物

受験勉強から飛び出した新しいフィールドは、世界。
チャレンジがかけがえのない出会いと、目標をもたらしてくれた。



川原 俊一 Shunichi KAWAHARA

経済学部 経済学科

E.S.S.に所属。尾道・向島出身。
定年退職後の夢は、尾道市長になること。

応募は受験勉強の反動だった…？

海外に出たのは、広島大学の「STARTプログラム」でこの夏に訪れたオーストラリアが初めてな位、これまで全く海外とは縁がなかったんです。高校時代に留学経験のある先輩から話を聞いて憧れくらいは持っていたんですが、入学通知の中に入っていたGPLPの案内を見るまでは、自分にそんなチャンスが訪れるとは思ってなくて。入学までずっと受験勉強に明け暮れる毎日だったので「外に出たい、広い世界に行きたい」という反動だったのかもしれませんが。定員20名、「これは狭き門だな」と思いながらも、すぐに応募しました。

夢を語れる仲間と、ともに学ぶ

第1期のGPLP参加生は全部で18人、留学要件となる必修の講義を一緒に受けているのですが、まず何よりみんなの意識の高さに驚きました。ぼくは「これがやりたい」という明確な目標なしに、GPLPを通じて自分に向いている学問を探していこうというスタンスでしたが、はっきりした目標を持って日々勉強に励んでいる仲間や、TOEIC®でほぼ満点を取る程の語学力がある仲間など、みんなすごいんです。「こんなに出来る人がいるんだ」というのがぼくの場合はいいい刺激になって、GPLPの仲間たちそのものがぼくのモチベーションだと言ってもいいくらいです。お互いに夢を語ったり、励まし合ったり、教育学部で英語の先生を目指している仲間には、英語を教えてもらったり。学部の枠を超えて尊敬できる仲間と知り合えたというのは、ぼくにとってこのプログラム最大のメリットとなりました。



ぼくは海外経験がまだ一度しかないのですが、実際に日本を出てみると、「英語」というのがいかに特別なものでないかを実感しました。例えばぼくが訪れたオーストラリアは移民国家なので、いろいろな国から移住してきた人は、母語を持ちつつも英語を話さないと生活ができないというのが現実です。日本では英語は「スキル」として通用しますが、海外では当たり前の中で、全然特別なことではない。それを体感した時、自分をもっともっと英語に力を入れなくてはいけないと実感しました。留学要件の授業の多くは英語で行われるため、受験でない英語にとまどうこともありますが、留学に必要なIELTS™の対策講座や「コミュニケーション上級英語」など、プログラムが提供してくれる実践的な英語科目でしっかりと英語を身につけていきたいと思っています。現在のぼくの目標は、1年生の間にTOEIC® 860点を達成すること。「いつかは仲間たちを追い越してやる」という気概を持って、英語に取り組んでいます。

目標は、飛び込んで自分で見つけるもの

また、大学で留学生と話したり、留学要件の一つであるINU学生セミナーの講義で様々な国の学生たちと話していると、日本の歴史についてや、宗教について質問される機会も多々ありました。ぼく自身は「日本人」以上に「アジア人」でありたいという思いがありますが、「アジア人」になるためには、まずは日本の歴史や宗教について、きちんと語れなくてはならないとも

考えています。その意味で、必修の「日本文化群」の授業を受けるのを楽しみにしているところです。

ぼくはもともと、飲料や消費財といった、時を経ても人間にとって必要であることが変わらないものに興味があります。大学でマーケティングを勉強するようになり、現在では、そういった生活必需品のマーケティングをアジア圏を実際に歩きながら行いたい、という目標もできました。例えばここに一本の缶ジュースがあるととして、日本のどこかで落ち込んでいる人に差し出されたジュースと、アジアの開発途上国の町角で売られているジュースでは、文脈が違うがゆえそのマーケティング方法も全く異なります。受験勉強をしている時は視野狭窄のような状態でしたが、GPLPに参加し海外に目を向けるようになって、こんなに世界は広がって面白いことにあふれているのかと、身にしみている毎日です。

GPLPに参加しようか悩んでいる皆さんにアドバイスするとしたら、自分で自分の可能性を狭めず、なんにでもチャレンジしてごらん、ということでしょうか。大学生活を実りあるものにするのも、空っぽにするのも、全て「自分」。ぼくは今、充実しています。



GPLPで異文化理解の大切さを再確認

2年生の夏休みからタイへの留学が決定。
現地の学生に向け、日本語教育の実習を行う。



勢原 明依 Mei SEIHARA

教育学部 第三類(言語文化教育系)
日本語教育系コース

英語が好きになったきっかけはカーペンターズ。
日本語教育のボランティアとして活動中。

高校でオーストラリア留学

小学校の時の夢は「通訳か翻訳家になりたい」。英語を嫌いになった時期もありましたが、いつの間にかまた英語が大好きになり、高校生の時はチャンスあって、1年近くオーストラリアに留学することができました。帰国後もとにかくまた留学したい、英語を生かしたい、という思いがあり、広島大学のオープンキャンパスの際には、早速留学について質問をしたのを覚えています。そして、「新しく始まるプログラムがある」と教えていただいたのが、GPLPでした。

異文化理解は臆せずに「話す」ことから

夏に行われたGPLPの選択必修であるINU学生セミナーは、私にとってとても大きな学びとなりました。「模擬国連」として世界中の国々から学生が集まり討論をするのですが、そのテーマの一つであったLGBTは日本でも随分と広まった言葉です。LGBTの方から実体験を聞かせていただいた時には、思わず泣いてしまったほどの衝撃を受けました。

オーストラリアにいた際も、日本で習っていたのと違う英語の発音に驚かされたことがありますが、INU学生セミナーで世界各国の学生さんが英語で話すのを聞くことは、とても興味深い体験でした。英語をとっても流暢に話す人が多いのですが、実はINU学生セミナーの全員が完璧な英語を話しているわけではありません。また、ネイティブ言語からの影響と思われる独特の発音で話す学生も少なくありませんでした。しかし、そのような学生さんも全く臆することなく、自分の思いを

伝えるためにどんどんと英語で意見を口にするのは。「伝える」にはとにかく「話す」しかない。異文化が理解し合うための基本中の基本を、実体験として会得することができた講義でした。

将来は日本語教師に

将来は得意な英語を生かした職業につきたいと考えています。ところで、「英語を生かす」という言葉から「英語を使った仕事」を想像する人が多いかもしれませんが。しかし私の場合は、留学中にオーストラリアで日本語を教えている先生と出会ったことをきっかけに「日本語を教える」ことに興味を持つようになりました。英語ができることをベースとしながら、自分のネイティブの言語を体系的により効果的に教える日本語教育法を習得したい。その思いから、2年生からはますます日本語教育を専門的に学びたいと考えています。

現在は、広島大学の留学生に、日本語ボランティアとして日本語を教えています。「あなたの国のお祭りについて教えてください」など、レッスンで文化の違いを例にすることも多いのですが、いざ私が聞かれると答えられない、ということもありました。自分の国について語ることができない異文化交流はありえません。GPLPの必修講義には「日本文化群」があるので、日本文化について不勉強だった部分をきちんと学び直している最中です。



座学ではない、交流と実践の留学を

私は今年8月から、タイ・チュラーロンコーン大学への留学が決定しています。チュラーロンコーン大学では日本語を教えたり、現地の学生と交流しながら座学だけではないさまざまなことを学んでいく予定です。英語圏ではない国で勉強するのは初めてなので緊張するところもありますが、暮らしや考え方、歴史や風俗など、実際に現地を歩き、現地の人々と交流することで見えてくる「本当のタイ」を学んでくるつもりです。

人とふれあい、町を歩いて未来を考えたい

日本語教師になりたいという夢を持っている私ですが、英語が何よりも好きなこともあり、地域を舞台としたローカルガイドなど外国人のサポートをする職業にも興味があったりと、実はまだまだ将来について模索中です。GPLPのプログラムの中でさまざまなところを訪れ、さまざまな人と関わり、そして仲間と相談しあいながら、自分の未来を築いていくつもりです。



日本建築のルーツを探るために、 留学したい

大好きな日本建築を、
GPLPの「日本文化群」と留学で未来に活かす技術に



広島だから学べたことがある

東京出身のぼくが広島大学を選んだ理由は、入学後の主専攻プログラムの決定が2年次以降なので、自分が専門としたい分野を1年間かけて考えることができる。そして何より「それまで育ってきたのとは違う新しい環境で、自分の可能性を試し人生の選択肢を広げたい」という思いからでした。GPLPを見つけた時の第一印象は、「あ、なんか新しいのがある！」で、まさに「挑戦」が大学入学後でのテーマであったぼくには、うってつけのプログラムだと感じすぐに応募しました。

広島の人にはわからないかもしれないのですが、県外出身のぼくには、GPLPの必須講義である、英語で学ぶ「平和科目」は新鮮でした。広島やその近郊で育つと、折りに触れ被爆の体験などについて聞く機会があるのかもしれませんが、そういった機会がこれまでになかったぼくにとっては、衝撃だったと言ってもいいかもしれません。広島に関わることになった人間として、学ぶべきことを、しかも英語で学ぶことができたというのはとてもいい経験になりました。

國井 奏 So KUNII

工学部 第四類(建設・環境系)

東京都出身。子供の頃から好きだったのは車とお城。「日本100名城」制覇を目指しながら、フォーミュラチームにも所属している。

子供の頃からの趣味が学びに、 そして留学に

また、中学生の頃訪れた松本城に魅せられ、それ以来趣味が「全国の城巡り」のぼくにとって、GPLPの「日本文化群」の一つの「文化財学入門」は本当に受けたかった授業でした。日本の伝統的なお城や茶室などについて、文化的バックグラウンドを盛り込みながら論理的に教えていただける授業は本当に面白くて、建築に



進むことに決めたこともあり、自分も修復について将来勉強したいと思うようにもなりました。

留学については、東アジアで建築の勉強をしたいというはっきりとした目標があります。

日本の建築が東アジアから多大な影響を受けていることは誰でも知っている通りですが、日本の建築については本当に理解するためにはこのルーツを辿っていかなくてはいけないと考えています。例えば中国ではもう廃れてしまった建築様式が日本の建築に残されていたり、中国国内での高貴な建物から民衆の建物まで建築様式を比較しつつ、日本建築との接点を探ってみたりと、ほんの少し想像するだけでも、見てみたい、学んでみたいことがあふれてしまうほどです。現在は留学要件として英語に重点を置いて学んでいますが、将来的にはアジア圏の言語を勉強する必要もあると考えています。

熊本城を再建したい

はじめは「知りたい」ばかりだった留学ですが、「文化財学入門」を学んだことで、その知識についてどう活かすかについてもおぼろげながら考えるようになりました。建築の歴史は、過去の偉大な技術の集積です。たとえば、熊本地震で半壊してしまった熊本城や、もちろん広島に残る被爆建物など、ぼくが留学で得た知識と現代の

技術をかけあわせ、人災や天災などで壊れてしまった建築物の、新たな修復の形態を模索できるのではないかと考えています。

また、海外に留学するなら知っておきたい日本の文化の一端としての建築について、GPLPの後輩たちにも伝えられたらという思いもあります。日本のお城について、ぜひ後輩たちにはその素晴らしさを世界で分かち合ってもらいたいと思っています。

「やりたい」ことをとにかくやってみる

ところでぼくは、学部の授業に、GPLPでの夢の実現に向けての勉強に加え、広島大学フォーミュラチームに所属してのレーシングカー作りにも携わっています。お城と同じように、子供の頃から車が大好きだったのですが、自分の学びのフィールドには建築を、そして車いじりはサークルでと、好きなことを余すこと無く実行している感じでしょうか。

そんなぼくからGPLPに参加を考えているみなさんにアドバイスを送るとしたら、自分が「やりたい」と思えることをみつけること。そして、それが見つかったら、とにかく一歩踏み出して、やってみること。やりたいことは躊躇しないで挑戦し、ぜひ皆さんの可能性を広げてほしいと思っています。



Global Peace Leadership Program カリキュラム概要

時期		内容	TOEIC®目標・到達スコア
1年次	第1ターム	<div style="background-color: #ffffcc; padding: 5px; text-align: center;">プログラム説明会</div> <div style="background-color: #ffffcc; padding: 5px; text-align: center;">登録者確定(上限20名)</div> <div style="background-color: #ffffcc; padding: 5px; text-align: center;">開講式・オリエンテーション</div>	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 10px; text-align: center;"> プログラム登録前のスコア TOEIC® 600点相当 (プログラム登録要件) </div> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 10px; text-align: center;"> 留学前の目標スコア TOEIC® 730点以上 </div> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 10px; text-align: center;"> 本プログラムの到達目標スコア TOEIC® 800点以上 </div>
	第2ターム	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">留学支援英語(※1)</div> <div style="background-color: #ff8c00; color: white; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">平和科目(※2)</div> <div style="background-color: #4b0082; color: white; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">国際交流科目 /フイールド型演習(※2)</div> <div style="background-color: #8b4513; color: white; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">日本文化(※2)</div> </div>	
	第3ターム	<div style="background-color: #ffffcc; padding: 5px; text-align: center;">チュータリング(※1)</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">START(推奨) プログラム(※3)</div>	
	第4ターム	<div style="background-color: #ffffcc; padding: 5px; text-align: center;">チュータリング(※1)</div>	
2年次	第1ターム	<div style="background-color: #ffffcc; padding: 5px; text-align: center;">チュータリング(※1)</div>	
	第2ターム	<div style="background-color: #ff4500; color: white; padding: 5px; text-align: center;">グローバル キャリアデザイン(※2)</div>	
	第3ターム	<div style="background-color: #008000; color: white; padding: 10px; text-align: center;"> 海外留学 (2カ月から半年程度) </div>	
	第4ターム		
3年次	第1ターム		
	第2ターム		
	第3ターム		
	第4ターム		
4年次	第1ターム		
	第2ターム		
	第3ターム		
	第4ターム	<div style="background-color: #ffffcc; padding: 5px; text-align: center;">プログラム修了</div>	

※1.留学目的に沿った留学プログラム、留学へ行くための要件、卒業までの履修計画及び留学先での履修科目の確認等をプログラム登録学生、プログラム担当教員会及び所属学部学生支援担当者とともに複数回にわたって実施します。 ※2.各科目群の具体的な授業科目は、本特定プログラムのウェブサイトをご覧ください。 ※3.海外経験の少ない新入生が海外の大学やその周辺都市を訪問し、日本と異なる文化や環境を体験することで、国際交流や留学への関心を高めるきっかけを提供することが目的のプログラムです。

各学部が推奨する海外留学

総合科学部

学内留学プログラム（HUSA プログラム等）を推奨。

派遣先の大学において学習、異文化体験、語学の実地習得等を目的として、概ね1学年以内の1学期又は複数学期教育を受けて単位を修得する。留学先で現地の学生と同じ授業を受講し、語学力の向上や専門知識の修得を目指す。

文学部

HUSA プログラムを推奨。派遣先の言語・文化を理解しつつ、ハイレベルな国際感覚、批判的思考などを身につけ、日本語や英語を駆使して日本と世界の橋渡しができる人材の育成を目的とする。

教育学部

アメリカ合衆国において教員養成系・教育関連科学のトップクラスに位置するミシガン州立大学への留学を推奨。同大学英語教育センターに所属し、主として英語の運用能力を向上させるための授業を受講。成績によっては、同センターで開講される教育学関連授業の一部を受講することが可能となる。

法学部

大韓民国・崇実大学校法科大学への留学を推奨。

英語による法律科目の受講及び国際法律模擬裁判への参加などを通して、語学能力の向上だけでなく、専門知識を英語で学び、それを積極的に活用できるグローバルな法学生材の養成を目的とする。

経済学部

タイ・チュラロンコーン大学への留学プログラムを推奨。「市場の安定と経済政策」をテーマに、日本とアジアの市場経済システムにおける制度的・文化的相違を理解し、グローバルに通用する論理的思考力を備えた、アジア全体の安定した経済発展に貢献できる人材の育成を目的とする。

理学部

派遣留学先は、主専攻プログラムの教員との相談で決定。

派遣先としては、アジア地域、欧米地域を予定している。

工学部

HUSA プログラム又は、インドネシア・バンドン工科大学への留学を推奨。バンドン工科大学の留学期間は秋学期である8月上旬から12月末まで。同大学の研究室に配属されるとともに、課題設定された研究やそれに関わる講義・実習を英語で履修。さらに現地企業への訪問などを通じ、アジアの産業及び工学の現状や特徴を学び、専門分野の英語を習得する。

生物生産学部

タイ・カセサート大学農学部及び協定学部への留学を推奨。英語による専門科目を履修するとともに、国際的な研究やその成果発表を英語で行うことができるよう養成する専門的な英語教育や、グローバル人材育成教育を目的とした国際課題研究を履修。また、授業の履修に加え、カセサート大学が主催するインターンシップに参加し、生物資源の生産から加工、流通、消費まで総合的に学ぶ。

情報科学部

派遣留学先は、コース配属時の指導教員との相談で決定。派遣先としては、アジア地域・環太平洋地域、欧米地域を予定している。

医学部、歯学部、薬学部の学生については、プログラム登録後、個別に相談。上記の各留学プログラムは一例であり、他の留学先を各自で選ぶことも可能。



広島大学 教育推進グループ (学生プラザ3F)

〒739-8514 東広島市鏡山1-7-1

Tel:082-424-6158

E-mail: gsyugakukm-group@office.hiroshima-u.ac.jp

詳しくは